

山形県立自治講習所農場日誌——昭和三年 第十三期

〔表紙〕昭和三年五月七日 農場日誌 山形県自治講習所第十三期

〔十一月四日まで頁が振ってあり、1から146頁までである。末尾の5頁は頁が振ってない。以下、頁は記さない。〕

四月三十日 晴 須藤春雄

- 一、先発隊氏名 須藤春雄、叶内庄五郎、堀健蔵、坂野吉六、五十嵐政道、以上五名
- 一、米一斗、味噌二貫匁、黒砂糖五百匁、鮭罐三ヶ、持参す。外にナフタリン二ヶ、石炭酸、クレオリン各一ヶ。
- 一、山ノ内より農場まで道路雪多し。

五月一日 曇天

- 一、作業 朝仕事、豆の雪よけ、大根、蕪菁掘出し。少し腐敗せるものあり。豆鼠害甚し。豆大分よし。須藤、坂野、畑の雪を測る。農場わずかに松山雪消えたるのみ。二名大石田行き、荷車を返す。鯨一束、鮭罐四ヶ棒鱈五百匁、米二斗、麩一サゲ。三名、第一寄宿舎、石炭酸にて消毒、ナフタリン散布、倉庫掃除。
- 一、農場番人 井上君下場

五月二日 雨

- 一、作業 朝仕事、雪かこい取り。第二寄宿舎、石炭酸にて消毒、第一寄宿舎畳を敷く。山羊消毒す。

五月三日 晴

- 一、作業 朝仕事、雪かこい取り。四人山内に藁運搬、十二束、一人藁切り。下駄整理、藁切り。

五月四日 晴

- 一、作業 朝仕事、土ふり。土ふり、富並行き四名。米六斗。第二寄宿舎第二回消毒。
- 一、人員移動 米廣君登場

五月五日 晴

一、作業 朝仕事、土ふり。土ふり（二名、三名大石田行き、一名山ノ内まで味噌二十貫、醤油二樽、運搬。二名記念館の雪かこい取り。

五月六日 晴

一、作業 朝仕事、豆はせより取る準備。全員にて豆を取り積む（第二寄宿舍東側、所長室前の豆）。午后第二寄宿舍畳敷き、第一第二寄宿舍便所掃除、畜舎周囲掃除及び雪かこい取り。

一、人員移動 杉浦君登場

以上先発隊日記、終り

五月九日 水 曇雨 丹野

一、作業 朝仕事、道場片付け。皇国運動、礼拝、朝食、八時礼拝、所長より班分け農場当番の要□（「一マス空け」）を話された。今日は全員打おこしをし、内、所長、富樫君にて牛耕をやった。又朝、土田、叶内、堀君達が、大石田に買物に行つた。昼食後僕と大津君とで大石田行きを富並迄向（「迎」）ひに行つて五時半帰所した。他の人達は午前と同じ一日にて七反歩程やつた。午后より風雨の為め五時に上り湯に入り七時夕食、九時礼拝就床。

所感 近頃は大変安心した様な感じがする。山形に居つた時は家の人達に計り難義「儀」をかけ、自分は楽にして居るので、非常にすまなく思つて居つたが、今度は自分も同じ労働をする様になつたので非常に喜んで居る。なほ今後は益々困苦欠乏にたえ一生懸命働かう。

五月十日 木 晴 吉田英一

五時起床、禊をなし五時半より一同道場に於て武道。六時半より皇国運動、七時朝食。作業 八時半より一班は陸稲畠に堆肥運搬、二班は畠ノ整地、三班は蔬菜試験圃の打おこしを為す。拾一時仕事を打きり、高橋、早川先生以下、十五名、富並へ過燐酸石灰、硫安運搬に行、着一時、西山昇方より過石二十二俵、硫安二俵、山の内迄荷車にて運び山の内より過石十三俵硫安二俵を背負ふ途中、車輪破損せる為、

高橋利喜助君方より借入せしも、又輪を破損せり。而して農場着八時、途中迄所長先生以下の出迎をうく。一方残全部は第二寄宿舎西の大豆打おとし収量二俵、九時礼拝。

五月拾一日 金 晴 坂本

作業 朝仕事、武道、皇国運動にて朝食を戴く。其の後八時半より礼拝して、一班は

作條、二、三班は堆肥運搬及び過燐酸を施し、後各班混合して播種（陸稻）する。

午後は耕耘、一、三班は入口の附近をやり、二班は西の農場各約二反歩づゝ耕耘した。六時半号音を聞き今日の仕事は愉快に終へた。礼拝すて食事した。今日午前十一時頃農林省の技師が御座つて午後片時、我等に非常に有益なる御話ありてお別れした。

所感 高天の原に登つて以来、真面目にやつて居るんですが、此の真剣味を以て終始一貫したいものだ。

五月十二日 土 雨曇 吉田義雄

五時起床、襖をして五時半より一同武道、皇国運動を行う。七時朝食、作業は雨天なる為に午前中は各自分担に従つて屋内作業をした。縄荷縄を作る者又は障子を張つたり、鶏舎を掃除したり、農具ノ整理修繕、物置の建設、取片付等、各班混して美化作業をやりました。昼食後一班二班は乙F農場（二反歩）に馬鈴薯を蒔付けた。初め私等の手で作條を行つて見たが、どうしてもはかどらない。牛を引出してやつて見たら思ひの外進行して甲A甲口（六反歩）の場所迄作條が終つた。矢張り大農経営は機械動力の応用が労力経済がとれる事を思つた。

それから三班と一諸〔緒〕に作物実験圃の聖地、施肥、作條其の一区割に陸稻、ウラサンを播種した（堆肥化石木灰用フ）。六時半夕食、湯に入り九時礼拝、床に着く。

所感 海拔一千六百、天の高原葉山の中腹に現在十町歩の地を有し五陵の建児三十名、牛六頭、山羊三頭、兎親子五匹、犬一匹、猫一匹（近日中鶏三〇〇羽位来ル）を家族として毎日感謝の生活を続けて居る、いとよき所だ。村里を離れて少し淋しい様な所だが、雄大な自然のふところには限りない趣がある。月山を背景に持つ私等の農場、曇る彼方には鳥海の頂も見える。高天原と自称するも無理ならぬ事と思ふ。

生来農業には余りにボヤな私も近頃漸く黒土の匂が好ましくなつた。事状の許す限り

茲に在つて神身〔心身〕を鍛練し性格を改善したいものだ。

五月十三日 日曜日 曇天時々雨 早川貞治

五時起床、禊をなす。五時半より一同武道、皇国運動をす。朝食七時、八時半作業開始、二班三班は甲A Bの馬鈴薯を播種（過燐酸木灰仕用）。一班試験圃に玉モロコシ、落花生、胡瓜、陸稲の播種、早川貞、小沼君は甲Cに小麦、大麦、フルツの播種、午後丙イの打越を為す。雨時々来たり。牛は丙ニを起す。大山君は道場に於て玉蜀黍を粉サイをす。四時頃記念館にてお八〔おやつ〕馬鈴薯の甘煮を食す。富樫君鮮牛を引く。富並へ行。米二俵を運搬す。今日より電話開通、村の処女連為に來たる。六時半夕食、九時十分礼拝。 終

五月拾四日 月曜日 晴午后雲 小沼

五時床起き禊致す。五時半より一同武道、其後皇国運動致し朝飯を食いましてから、平豆の選定し、八時半頃より畑地経営致しました。午前中一同畑整地致しました。田中君、丹野君、吉田君等、高橋先生の所で□□畑に堆肥を運船、致しました。午后より一同馬鈴薯種播を致しました。尚外に堆肥運船も有りました。夕方、六半で一同帰休す。夜九時で礼拝致し休みました。

五月拾五日 火曜日 曇天 會田俊雄

五時起床禊ヲ行フ、五時半ヨリ一同武道、皇国運動ヲ行フ。七時朝食八時半ヨリ堆肥運搬シテハ馬鈴薯蒔キ、他ノ一団ハ過石ヲ施シ燕麦播キ、午後半ニテ堆肥運シテ玉蜀黍播種、一、三班ハ堆肥過石施シ、馬鈴薯播種。夕方葱移植、牧草（試験的ノ）播種以上ノ仕事、七時頃ニ終リ薄闇ノ内ニ礼拝シ労働ノ一日終ル。直ニ夕餉ニ舌鼓打ち入浴ニ一日ノ労苦ヲ忘レ、九時礼拝就床。

雨降ルカ降ラスカノ天候ハ続イタ曇ヨリトシタ日、然シ蒔付ケニ打起シ、地ナラシニ全力ヲ注グニ何等ノ障害トハナラナカタ。無言ノ内ニ働キ修養ヲ積重スル農場、森羅春ヲ営ム。ソ□呼吸ニ合致シテ愉快、弥栄へ進展、森羅ト共ニ新緑ハ燃エル、細霧ハ農場ヲシテ高原トシテ靈地トシ、清新ニスル無言ノ内、弥栄ハ進展ス。進展ニ合流ス。吾等ノ快、何ヲ以ツテ報ヒン。働キ汗ニテ心ヲ磨クカ。

五月十六日 水曜日 晴 荒木哲二

五時起床、襖、野菜摘み、六時二十分礼拝、朝食す。七時農場出発、楯岡駅より十二時十一分発に乗り、北山形駅一時着、明日の御親閲の為汽車は満員であつた。講習所に一時二十分着した。九時礼拝寢床。

五月十七日 木曜日 晴

五時起床、武道、皇国運動行ひ、七時半朝食、九時出発、九時三十分聯隊に着いた。十一時より閑院宮殿下の御親閲賜はる予習した。十二時半整列し一時半殿下を奉迎す。三時三十分より畏くも殿下の御前に於て武道、皇国運動を行なつた。四時殿下を奉送、満洲公主嶺農事講習所長宗光彦先生の御話を聞く。五時学校に着いた。

五月十八日 金曜日 晴

起床五時、皇国運動行ひ、先発隊土田君外六名、十時十五分北山形駅発し、農場に五時到着す。他の人は十二時五十分北山形駅を出発、袖崎に下車す。僕と会田君は楯岡に下車し堺ノ目にて袖崎下車の人々追付いた。山の内茶屋五時着、農場に六時半到着。先発隊は炊事をして下さつた。全部で二十名。九時半礼拝就床。以上、終り。

五月十九日 快晴 氏家栄暢

午前五時半起床、全員皇国運動。

作業 朝仕事全員にて第二寄宿舎わきの打起し、朝食后杉浦、岡寄、丹野、吉田、吉田英、田中、坂本、坂野、氏家、以上九名にて山之内よりカリンサンを運搬す。

土田兄水道のポンプ修繕に行く。富樫仁君富並より牛にて米運搬、松田君は自分の荷物取りに山の内迄行く。高橋先生鶏舎の取かたづけして養鶏の準備を為す。残りの人で試験圃に色々の播種。午后より叶内、田中、小笠原、杉浦、松田、坂本、氏家、以上七名、山之内より藁を運搬、高橋先生外二、三名にて鶏舎の準備、早川貞治君、記念館の掃除、藁運搬人帰つてから新開地に西瓜の穴掘りをする。

午後五時半頃全員引きあぐ。宗先生及び所長先生登場したので、いつもより早く作業停止す。

人員移動 宗先生、所長先生、五十嵐君登場。宗先生、校長始め一同夕食を頂き八時より記念館に於て宗先生を中心に茶話会を開く。宗先生は一同に支那のお話しをし

て下さった。所長先生の記念館に記念する農夫姿の写真を写してはと云ふ相談等あった。午後十時半礼拝就床、農場に登つてから記念館に於て今日は初めての茶話会であつた。

五月二十日 晴 五十嵐正道

午前五時起床、全員皇国運動。

作業 朝仕事、全員打起し、宗先生を門前に弥栄で見送り、後、新開地に西瓜床掘り、堆肥運搬をなす。土田、早川両君、大神宮の西にハローをかける。午後丹野君、鶏舎の準備を為し、土田、田中両兄、大石田まで雛取に行く。松田丹野兄、山内まで迎に行く。残り午前中の続き。

所感 額に汗しつゝ土のほひを味ふ中、いつも清浄なそしてゆかしい風味がある。これまで土の深みを知らなかった。今こゝに来て初めて土の味を感じた。尚一層味ふ事を勉めよう。

五月二十一日 晴 ちよつと雨 松田節郎

朝五時起床、五時半皇国運動及び弥栄三唱。後朝仕事。去ともろこし植へた所とあづき植へた所の田であつた所を打ち起して八時近く礼拝して朝食。九時半より一町歩の新開地に西瓜の床を掘り堆肥運搬をやつた。

坂野君は大神宮様の上に機械にて豆まきをやつた。米広登場。昼食後一時半より亦各々午前中の続きを行ふ。坂野君は一日で四段歩ばかりやつたそうである。新開地は西瓜の床を全部こしらへ終る。早川さんと田中君とは午前午後朝起した所に朝鮮牛にてハローをかける。九時十五分頃礼拝して就床せり。

五月二十二日 火曜日 晴 小笠原武雄

記事

朝五時起床皇国運動、終りて農場打起し朝仕事は実に気清々して良好である。七時半終、礼拝、高橋先生より実習に関する注意ありました。后前中一班整地、二三班堆肥運搬。土田、早川牛耕、坂野大豆播種。后後一班は前と同じ、二三班トウキビ播種。高橋先生と坂野、夕方頃より西瓜の鞍築致したのに、水掛を致した。四時頃浅野等下国登来る。十二頃二人種子物もら□来る。

所感 耕地の中央に舎があり、労力分配等、実に良く又理想的であると思れる。然し朝夕の寒いには実に作物に対して悪い様に思はれるが、熱心にやれば良好に行く事たらうと思はる。又、実に高橋先生の動きには感謝の外はありません。今後益々努力致しませう。一家の御健康を祈上ます。

五月廿三日 水曜日 晴 米広穆衛

一、記事

朝五時起床、皇国運動、朝仕事、二名トーモロコシ畠の排水溝掘り、其の他は南瓜、西瓜の播種、八時朝食、九時出発、坂野順口を留守番にのこし全員山の内の運動会に列席した。三時半終り、五時帰場、五時より六寺半迄青物取り及び西瓜、南瓜の日覆をなす。

一、人員移動 所長先生御登場。以上

五月二十四日 木曜日 晴 叶内庄五郎

一、作業 五時起床、皇国運動、朝仕事は全員打起し礼拝して七時半朝食。八時半より高橋先生外二名杉苗づくり。土田君二名牛舎の肥出し。外は打起し。午後は高橋先生外三名堆肥積、外全部西瓜のくらくくり、其の後豆調製、六時頃終り拝礼して楽しく食事を戴きました。

一、人員移動 田中君、坂本君、帰省

一、所感 真面目に働く時に非常に痛快に感じます。近頃実に農場生活も愉快になり家に居た時は体も弱く休んでばかり居たが農場へ来てからは体も丈夫で飯もうまくて愉快地働けるので実に有りがたく感じます。以上

五月二十五日 金曜日 晴後曇 富樫仁

五時起床、襖後ち皇国運動、朝仕事として丙C地十数の人にて打起しをなす。所長先生は県下中等学校長会議にて新庄に向ふ。七時半礼拝後ち朝食を済ます。八時半より作業に取りかゝる。第一班、二班合して数名の人にて山の内に藁背負に行きて、後后十二時半帰場、第三班は高橋先生と丙D地に燕麦蒔き準備として整地作條、施肥（木灰）をやつて昼食時き一時。二時より后前中の引続きの燕麦蒔に第一二班取りかゝり、第三班は丙F地に玉蜀黍蒔きをやる。僕は牛で新開地に堆肥運搬をやる。

后前後后より各班取りかゝりし作業、夕刻出来上り、七時礼拝をなす。後ち夕食を済まして九時に礼拝して後ち就床。人員移動、丹野、吉田義雄、会田君等。以上、終り。

五月二十六日 土曜日 雲り 正午に雨 杉浦新司

何日もの如く朝は五時起床、禊をやり皇国運動をなし、過ぐ〔すぐ〕朝仕事に取り掛る。今日は昨日の続き、昨年大豆を播種した丙A土地の打起であつた。七時半に起し上げ礼拝をやり、朝飯は八時頃であつた。食後の休時間に大豆食器一杯づゝ良し悪しを選定して八時半より杉苗の仮植種子播種を行ひ、一時頃昼飯を戴く。一時間程休むで又過ぐ〔すぐ〕午前の仕事の引続をやる。六時五拾分頃予定の仕事が終へ礼拝をやり夕飯を戴く。九時礼拝を行ひ就床。以上

土田君、坂本君等は朝四時起床して神町の営林省〔署〕苗園から松苗五千六百程頂戴し、五時半頃帰つた。

五月二十七日 日曜日 雲 浅野佐内

朝五時起床、朝飯前松及び杉苗植をしました。午前七時朝飯、同八時半より朝仕事と同じく松苗植致しました。后午〇時半昼飯、后午二時よりパツパード及び西瓜等を播種しました。又午ボウ等も播きました。后午六時半実習休み、礼拝、同七時夕飯、同九時礼拝、休み、以上、終り。

五月二十八日 月曜日 晴 大山喜七郎

五時起床、禊後皇国運動、朝仕事、□〔浅？〕野君、吉田英一君、早川君は大豆まき、残の者代で人參玉ネギをまきます。九時朝食午前中第壱キ宿舎の後を打起す。西瓜の隣りを午前中にやります。午後全員豆まき後、白瓜をまきます。高橋先生より実習に関する注意がありました。九時礼拝就床。終り。

五月廿九日 火曜日 晴れ 阪野吉六

一、記事

朝五時起床、禊後、皇国運動、朝仕事は一同で粟畑の整地行いました。礼拝し七時二十分朝食、八時半より礼拝し高橋先生、外一同で粟蒔を行い、叶内君は牛を引き、富並に味噌、米糠、取りに行きました。午后よりは土田君は竹の子取りに行き、

外高橋先生、外全部で胡麻〔胡麻〕蒔きし六時半頃終り、礼拝して楽しく夕食を戴きました。食後ハ早川先生の御馳走菓子を戴き九時に礼拝し床に就きました。

人員移動、早川先生登場、浅野君帰省。

所感、農場生活も早三十日となり、私の感じた事は清やかな空気を吸い、日熱を受け、真剣に働きあせを流し、夕日を葉山の奥に深く沈めて作業の後を見ながら舎前に集り、先生と顔を合せた時は実に愉快である。

五月三十日 水曜 晴 吉田英一

六時起床、禊をなす。本日は蒔付終了に付、休日にし餅の饗応をなす。餅係、坂野、吉田、雑煮係、杉浦、五十嵐、小笠原、香物係、氏家、小豆係、叶内、大山等、土田大膳守の指揮のもとに得意の腕をふるひたれば山海の珍味一時に集る。九時半礼拝し朝食を戴いた。食後は庭球をするもの、山野に入りて青物を採るもの等、各自の欲する処に委せた。小笠原君、子兔三匹を朝ばれ山下に捕獲せり。持帰りて飼ふ。九時礼拝就床。

本日土田君帰所、叶内、坂野君帰宅。

五月三十一日 木曜日 快晴 早川貞治

五時起床禊をなす。五時半皇国運動。朝仕事、新開地の打起し、七時半朝食、小豆の整地作條、高橋先生及杉浦君、高橋（利）君は大麦小麦に追肥をなす。午前に高橋（利）君来場、在場十二名。午後高橋先生外二名、試験圃に追肥、外は大豆の打落し及び調整、八時十分終了。夕食八時十五分、礼拝九時。第二寄宿舎の者六畳方に移転。終り。

六月一日 金曜日 雨

五時起床、禊をなす。六時皇国運動。朝仕事、新開地の打起し。八時朝食。午前小豆の種播地き〔ママ〕、午後大豆の種播地き牛と米廣、小沼、新開地の打起し。夕食七時礼拝九時。

六月二日 土曜日 雨 氏家栄暢

午前五時起床、朝落豆拾ひ、花園の際、草等午后牛蒡の播種、農具整理、舎内整理、下駄の修理等。午前高橋先生雨の中を大久保に牛の種付に行かれた。午后九時礼拝就

床。以上。

六月三日 日曜 前曇后雨 米廣穆衛

朝五時起床、朝大豆蒔地整地及び蒔付、午前中豆蒔、午后豆の選択。高橋先生大久保より帰場、米廣朝鮮牛を引き富並行き、小米、米糠持来る。六寺半夕食、九時礼拝、以上。

六月四日 月曜日 晴 五十嵐正道

記事 五時起床、大神宮様裏の打起し、食后大山兄瓜蒔き、杉浦高橋兄大豆蒔き、松田五十嵐諸兄は牛、山羊の堆肥出し。小沼兄玉蜀黍搗き。午後早川兄、高橋先生、牛耕。残ノ山ノ内まで藁背負ひす。後陸稲の除草、瓜蒔きをす。

人員異動 氏家兄山形に帰る。高橋兄田植に付き帰宅す。富並処女会員教員来所す。九時就床。

六月九日 土曜日 晴 大山喜七郎

五時起床、皇国運動後朝仕事、甘薯植、午前朝仕事の続き、後黒大豆、ヒエ蒔き。午後ヒエ続き後甘藍植へ。

人員異動 田中君、叶内君来る。松田君、杉浦君、牛の種付に行きます。九時礼拝就床。

六月十日 日曜日 晴 早川貞治

本日は休日成り。休日なるも特に五時起床して朝仕事に甘薯の植付、朝食後は各自思俣に行動す。十時頃所長、奥さん、下女帰形す。田中君は萩野へ移転す。米広君も山形へ行くなり。川口君、富樫君、坂本君、来場す。夕食後土物の御馳走になる。礼拝は九時五分前なり。終り。

六月十四日 雲 木曜日 富樫仁

五時起床、後ち皇国運動、朝仕事馬鈴薯の除草及除薬を行ふ。七時半礼拝後ち朝食を済す。九時より各自分担に取りかゝる。叶内、坂本両君はスあみを行ふ。早川先生外数名にて朝仕事の続きをやる。午後より農場門前打起し、半〔ナカバとルビあり〕過

ぎ行ふ。六時半礼拝、後ち夕食、九時礼拝就床。

人員移動 高橋先生、丹野君下場、吉田英一君登場。以上、終了

六月十五日 曇 金曜 叶内庄五郎

一、作業 朝仕事、馬鈴薯、除けつ、除草、七時半礼拝して朝食。午前門前打ち起し草けづり、一部馬鈴薯除草、松田君、陸稲の除草。午後は午前の引続き終りて陸稲除草。富樫、五十嵐両君、夏蕪の間引追肥。富樫君は富並行き。午后四時頃帰場。

一、人員移動 所長先生、土田助手、五十嵐君、登場。

一、事故なし

一、所感

六月十六日 土曜 曇 吉田英一

一、作業 朝仕事は陸稲除草並に早川先生以下（一字分空き）名は試験畠（約二字分空き）に追肥。午前は畜舎西馬鈴薯の畠の除草。午後第一寄宿舎東南馬鈴薯の除草。早川先生、土田、坂本君は午前中陸稲に追肥。川口大山君は午後農具舎週（周）圃の取かたつけ。

一、見学団 山ノ内小学校児童一二年生数拾名来場、白鳥巡查夫人二名見学に来る。

六月十七日 日曜 晴 坂本国策

一、作業 朝仕事は馬鈴薯の除草。午前は川口君、大山君、小沼君は昨日の引続き敷地の整理をなし、外は馬鈴薯の除草、記念館前の畑を馬鈴薯の除草は午前中にて全部出来上り。午後は旧官舎の跡に小豆蒔きをしる。川口、大山は午前の引続きをしる。早川先生と叶内君は大久保に牛の種付に行き早川先生は泊つて来る。

一、人員移動 高橋君登山する。

一、所感 入梅の事として朝にすすと降り出すが、僕も今日の天気は心配したが、朝食後には晴れて実に面白く働く事が出来てうれしかった。

六月十八日 月曜日 曇雨後晴 早川貞治

朝仕事、門外新開地除草作條を朝食後〇、昼食後堆肥分配、過燐酸散布、大豆の青枯用の種子小豆馬鈴薯の植付を行ふ。富樫君、蔬菜園の整理、畜舎掛り。草かり土田君、

高橋君大石田行。早川先生来場。

六月十九日 火曜日 前晴後雨 小沼正勝

朝仕事、蔬菜テリと苗、第一班草刈、朝食、小豆播地牛の堆肥だす。牛耕早川先生、土田君、昼食、午後大豆撰る、松田君す見、夜食七時十五分、礼拝九時就床、終り。

六月二十日 水曜日 雨 五十嵐正道

朝五時半起床、大膳守土田兄、叶内餅係、小豆係川口、雑煮係氏家、納豆係五十嵐、各人ベストを尽す。山海の珍珠食卓のどに集る。船越先生、高橋君、鎌の修繕す。残り全員草刈、食後各々の心のまゝに行動す。後は例の如し。終り。

〔二十一日から二十六日は記述なし、理由は不明。〕

六月二十七日 曇後雨 叶内

一、五時起床、朝仕事、新開地除草。鶏舎前残地に青刈大豆播種。午前中ゴム〔ゴマ〕の除草。午后より雨にて豆えり。夜川口君の御土産戴く。

一、人員移動、川口博君

一、事故、米広君病気休業、船越先生楯岡へ行く。

六月二十八日 晴 叶内庄五郎

一、五時起床、朝仕事、新開地除草、午前引続き除草、午後ゴマの除草。

一、人員移動、なし。

一、事故なし

六月二十九日 晴 坂本国策

一、五時起床、朝仕事菜種収穫後の打ちおこし。午前は粟の除草。午後も引続き中休み迄で出来、其の後苗圃の除草をして南瓜の追肥をして七時夕上り。

一、人員移動、岡崎君登場。

一、所感 午前中除草しながら余りやかましいので食事の時に所長先生より注意ありたり。今後は真面目に働く事を決心した。

六月三十日 雨 一時晴 杉浦新司

一、五時起床、朝草刈、土田、吉田、坂本、丹野、荒木、小沼君。

一、外の人は南瓜にアンモニアの施肥、玉ネギの補肥を行ふ。

一、食後休

一、人員移動、舟越先生、紫橋君帰、高橋先生登場。 以上

七月一日 雲天 岡崎

一、五時起床して朝仕事として氏栄、松田、会田、川口、五十嵐君草苴りす。外の人は燕麦の除草。

一、午前中は道場にて大豆精選する。午前は土田、大沼、富樫君はカルツベイターを利用して鮮牛〔朝鮮牛〕にて燕麦の中耕、高橋先生、坂野君補肥する。外の人は人參牛蒡の追肥、人糞尿、硫安、菜豆の除草、人糞補肥。

一、人員移動、所長先生午前五時頃富並青年会に講演に行く。坂本眼病にて休む。以上。

七月二日（月）晴曇 丹野

五時起床、草刈に三班の人達行ツタ。他は上の西瓜畑に硫安を追肥、朝食後僕と小沼君、菜口をデリスにて消毒（式斗五升半）、他は陸稲の除草。午后より牛舎を上げ堆肥を積み、土田君等牛の瓜を切ってくれた。所長と大工五時頃登場。高橋利喜助君、馬をつれて登場、茄子苗を摘つて来てくれた。礼拝後土田君を中心に打撲をとつた。礼拝、就床。以上。

七月三日（火）曇り雨降り 阪野

五時起床、朝仕事、草刈、一班の人全部行き、他は薪切準備、□〔金へんのみ〕とき、朝食後、叶内、川口は薪割、丹野、阪野、小屋かけ、他は全部薪切り、富樫は富並行き、所長、土田帰所。高橋利喜助、帰省。叶内、川口、丹野、阪野、大工に手伝、大神宮裏より木出し。九時礼拝、床に就き。以上。

七月四日 水曜 雨後曇 吉田

五時起床、朝仕事、草刈り、第二班と僕、丹野、坂野君、他は丙圃場、道路北小豆の

間引除草。

一、作業、降雨の為豆選り、叶内、富樫、坂本、荒木君は縄なひ。午後雨止みたるに由り此新開地の草けづり。叶内富樫君、午前同様、早川松田君は豆選り、而して中休前は丙圃場道路北小豆の除草間引。夜高橋先生よりビハをいたゞく。
一、人員移動、早川貞、浅野君登場。

七月五日 木曜 晴 坂本国策

朝仕事は小豆の除草、食後に叶内富樫は大石田に大豆を送るべく朝鮮を引き、其の他は新開地の西瓜の除草及び蔬菜の除草をして、午後は薪切をしる。六時半上りて角力大会を開く。七時大石田行き来る。高山君同道登場。

七月六日 金曜日 晴 小沼

五時起床、皇国動運〔運動〕、草刈は休、一同で小豆の除草中耕、朝食八時、食後一同で九時半迄で蔬菜の除草、拾時より記念館の西の川より石運び、中食一時二時半より午前の続き、石運び、四時半迄で行五時半より叶内、富樫、薪切、大神宮裏を切り、外一同は蔬菜の除草す。八時に夕食す。食戴き九時礼拝、床に就きした。終り。

七月七日 土曜日 曇天 會田俊雄

五時起床、皇運〔皇国運動〕後、全員蔬菜圃の除草、中休後礫運搬、一部背負ツテ外半分ハ河ヨリ上ゲル。午後カラ更代〔交代〕ニ午後ノ中休ヨリ西瓜土寄、六時半ニ仕事モ切上ゲ炊事場増築落成祝ノ角力（故ニ常ヨリ早ク仕事切り上グ）アリマシタ。祝ノ意ニテ夕餉ハ明ルイ内ウドンヲタベマシタ。

所感、「弱キモノノ惨メサ」ヲ鋏ノ道場力ノ修養ニ充分味フタ。建〔健〕全ナル身体ニ健全ナル精神宿ルトコノ真理ヲ思フトキ、吾不健全ナルモノダツタ。常ニ除草ニ弥運搬ニ総テノ動作ニ強キモノノ仲間ノ生活総テニ不平不満ニ心ハ迷フテハ、総テノ動作モ鈍ナルモノアリマシタ。反省ニ反省ヲ次テ対スルトキ、常ニ煩悶セザルヲ得マセンデシタ。ア、済マン、強キ正シキ人々ニ。

七月八日 土曜日 曇天 早川貞治

朝仕事は大山君の代りにけやきの下の小豆の除草。午前は小豆の除草間引きで、昼食

は一時。午后も小豆の間引きであった。外に人参の間引その他、種々蔬菜園の手入等を為す。除虫菊の花採りを為す。以上。

七月九日 日曜日 雨後曇 荒木

五時起床、襖をなし皇国運動。朝仕事草刈二班、他班は小豆除草。朝食中雨が降ったので食後道場にて大豆選び、舟越先生、坂本、叶内、富樫、坂野、僕と藁仕事。午後一、二班薪木切り。三班牛の厩肥出し、舟越先生、叶内、坂野かまど作り。富樫、松田、牛にて山の内より砂運搬。六時半農場畑巡廻、異状なし。終り。

七月十日 火曜日 雨 氏家栄暢

五時起床、朝仕事草刈、南瓜の床作り。朝食後作業休み。以上。

七月十一日 水曜日 曇

五時起床、襖をなし皇国運動、朝仕事、第一班草刈り、二、三班はテニスコート西、甘藍畠の作條。

一、作業、甘藍畠に堆肥運搬をなし同鞍作り、午后同様、後一部は東中央新開地の薪切り、他は同運搬、船越先生、叶内、坂野君はかまど作り。

一、人員移動、丹野君、眼治療の為山形へ、後藤君登場。

一、事故、浅野君腹痛の為休み。

七月十二日 木曜日 晴 土ヤ〔土屋〕

一、五時起床、皇国運動し朝草刈は第二班、他班は小豆除草。

一、作業、食後テント張る。陸稲の施肥中耕、高山、早川、浅野、會田君は小□□作小豆間引、午后油菜畠へ人糞尿を運びキミを為し、午後同様。松田、富樫君は牛にて山の内より砂運搬、岡崎、杉浦君は砂採り。後藤、五十嵐君は溝修理。
一、人員移動なし。事故、以上〔異状〕なし。終り。

七月十三日 金曜日 晴 吉田英一

五時起床、襖をなし皇国運動、朝仕事、第三班は草刈り、他は大神宮裏大豆の間引。作業、船越先生、叶内、坂野、荒木（午后浅野、小沼）は炊事場のコンクリート工事、

會田、後藤、高山、大山君は道場取かたつけ。坂本、早川（半日）君は襖場道路作り。須藤、吉田英（午前）、吉田英、會田（午後）は清水下流の水路整理、杉浦、岡崎は山ノ内へ砂利とり、富樫松田君は全運搬。夕刻群馬県六里ヶ原移民者十五名酒井先生と登場。加藤先生作荒れ果てし鶏林の野を敷島の瑞穂の国と成さねばやまぬ。

七月十四日 土曜 晴

四時半起床、五時友部短期生を弥栄を以て送る。草刈りは第一班、他は大神宮裏大豆の間びき作業、高橋先生、土屋、高山、大山、早川、米広は道場取かたつけ、會田、浅野（午前）は水路整理、坂野、荒木は豚舎作り、吉田英、坂本は記念館附近の薪運搬、砂取りは後藤、杉浦、岡崎同運搬、大石田行は富樫、叶内、高橋君登場、荒木、浅野は山羊を殺。

七月十五日 日曜 晴

五時起床、襖をなし皇国運動、朝仕事草刈り第二班、高山、浅野砂利選り、船越先生、叶内、坂野はコンクリート工事、吉田英は人參の間びき、他は蔬菜畠の手入。作業、船越先生等引続き、坂本、大山は水路整理、氏家、浅野、高山は砂利選り、他は大神宮西南牛蒡の間びき除草。後両圃場南瓜の除草鞍作り。午後コンクリート組引続き全員にて山ノ内より砂運搬、帰って第一寄宿舎裏胡〔胡〕麻の除草、米広、坂本、高橋は記念館の掘掃除。本日登場、黒澤、堀、田中、金子、草刈、吉田義、佐藤秀明。

七月十六日 月曜 曇

五時起床、襖をなし皇国運動、朝仕事第一、三班は草刈り、第二班馬屋出し作業、吉田英、坂野、後藤は砂利整理、黒澤、堀、浅野、杉浦君は道路刈り、坂本、田中、土屋、米広は水路のしがらみ、他は甘らんの定植。午後四時迄同様、四時所長、土田、丹野、大津君登場。十一、十二期もぞくぞく登場す。夜記念館に於て土田、国井君の送別会を行ふ。交々立ちて両氏の前途を祝す。記念撮影をなす。

七月十七日 火曜 雨

四時半起床、襖をなす。葉山登山挙行の予定の処、降雨の為中止。午前中は休み、午後長谷川先輩の味噌醤油醸造に関するお話あり。土田君等午前九時豪雨の中を弥栄に

送られて帰る。

七月十八日 水曜 曇時々晴

五時起床、本日葉山登山、出発七時半、先達井上君、船越、高橋先生以下二十六名なり。山ノ内を下る。昨夜の猛雨にて橋流失す。縄によりて渡る。一ノ瀧、二ノ瀧、小松原、等の勝景を見て川に沿ひて登る。雪あり。写真撮影をなす。西に向ひて進み、南に向ひて進む。胸突八町等エツサエツサと気合を掛けて登る。十二時半頂上葉山神社に達す。先ず礼拝をなし弥栄を三唱す。昼食をなす。吾妻月山鳥海蔵王等雲間に聳ゆる雄大なり。葉山より眺めて鳥海と等高に青く見ゆるは海なりとの意見は高橋先生なり。船越先生之に応援して曰く、海は鳥海よりも高く見ゆる事ありと。我等之に反対せしも聞き入れず、論戦二時間に及びたるも遂に決せず。他日に之を残して帰る。帰途座ぜん岩を見る。帰所五時半。

七月十九日 木曜 晴

五時起床、第三班草刈り、他は第一寄宿舎裏、胡麻の除草作業、一同天幕張り。僕と荒木、高山は蚊帳整理、丹野、松田、土屋は記念館用水の水揚げ。坂本、後藤、掘、黒澤は河川のしがらみ。他は道場の上に稲扱器あげ、午后僕と荒木、山ノ内へ藁せおい。後縄なひ、坂本組午前同様道路修理風呂物作り。

七月廿日 金曜 曇

五時起床、朝仕事第一班草刈り、他は甘藷の除草、唐ぐわの柄すげ作業、本日は定例休日なるも、師範生来るに依り便所造り、河川のしがらみ、柄すげ、きび播き等なす。午后一時師範生百十五名、先生四名と登場、直に東松山に至りて農場の説明を聞く。船越先生正午下場。

七月廿一日 土曜 晴

五時起床、記念館下にて禊をなす。第三班草刈り。他は第一寄宿舎裏胡麻畠の除草、師範生と皇国運動。

作〔作業〕、師範生は十時迄講話、後藤、黒澤、掘は溝整理、荒木、吉田義は縄なひ、他は中央新開地の薪整理、十時半より荒木、坂野並に師範生、半分は北新開地の草刈

並に打おこし。午后掘、坂野並に師範生半分は草刈り、荒木、黒澤並に師範生半分は午前同様打おこし。

七月廿二日 日曜 晴

五時起床、禊をなす。朝仕事全員にて馬鈴薯の摘花、后第一寄宿舍裏胡麻の除草、後師範生と皇国運動。

作業、中央新開地の薪取かたつけ十時より。富樫、坂本、堀は師範生と北新開地上方の打おこし。坂野、荒木と師範先生半分は草刈り、丹野、氏家は唐ぐわの柄すげ。十時師範和田校長、安田少佐登場。

七月廿三日 月曜 晴

五時起床、長期生は朝仕事より馬鈴薯の中耕。夕刻迄全部完了。師範生皇国運動。朝食后学科。十時より坂本、富樫、荒木、堀、坂野と第七期生植林地下方に松の植林、午後中休前は丙圃場粟及トモロコシの除〔除草？〕、中休後植林、夕方船越先生登場。

七月廿四日 火曜 晴

師範生皇国運動第三班と丹野、後藤、僕、草刈り。他は甘らんの青虫とり。

作業、第一班と松田は牛舎肥料出し、師範生1—3と堀、荒木は草り〔草刈り〕、師範生1—3と高橋先生は北新開地上方の打おこし、残りと長期生は船越先生は中央新開地の打おこし、十一時高千穂足につなをからみ溝に入りてでき死せり。惜むべし。午後ねごろに埋葬せり。

七月廿五日 水曜 晴

一同武道、船越、高橋先生、型をなす。午前中休前第一寄宿舍裏胡麻の除草、中休後師範生と中央新開地、北新開地の開墾及第一寄宿舍東甘藷畠の除草。午後は北新開地上方のみ開墾、四時仕事完了、角力等なす。食後茶話会、生駒先生の道者清水に関するお話、所長答礼、高橋先生のびわ、其他あり甚だ愉快なりき。

七月二十六日 木曜 晴

朝仕事、第一班草刈、他は南新開地西瓜の除草、師範生皇国運動、師範生八時出発、

尚一部は五十嵐、氏家、吉田義と葉山登山、又一部は早朝月山へ出発せり。弥栄を以て送る。

作業、午前中は全員にて干草取かたつけ、午后少しく降雨の為、北新開地に蕎麦播き、會田、黒澤と僕は山ノ内に藁せおいに行。

七月二十七日 金曜 晴

朝仕事草刈りは第一、二班、他は中央新開地に蕎麦蒔き作業、テニスコート西甘薯畠の西に作條なし宮重〔宮重大根〕、練馬大根播種後、蔬菜圃に至りて麦のあとに白菜大根等播種、第二班は蔬菜圃並に大神宮前の麦刈り、第三班は同打おこし整地、午后引続き甘らんの移植施肥、南瓜豆の施肥、ねぎの施肥等なす。

七月廿八日 土曜 晴

朝仕事、草刈りは叶内、荒木、富樫、高橋、牛二頭と。残全部にて清水の南、麦のあとに打おこしをなし、人糞尿をなし、大根の播種、八時半切あげ、拾時半出発、肘折行。一行拾九名、次年子、松橋、滝之沢、農牧をへて肘折五時着。松井旅館に投宿、後藤、土屋、朝帰宅。

七月廿九日 日曜 晴

六時起床、水浴湯浴等随意。六時半より皇国運動を薬師神社に於てなす。朝食后大蔵鉱山視察。午后は石胞〔石抱〕温泉に至るもの、小松ヶ渕に至りて水泳するもの、湯にひたるもの等あり。正午笹原坂野君、大山君の電報を持参し昼食を済まして帰る。大山君一時帰宅、叶内、富樫、浅野君朝各帰宅。

七月三十日 月曜 晴

六時起床、六時半より薬師神社に於て皇国運動、十一時半昼食を済まし、正午宿舍出発、途中鳥海雲上に浮び出で、美しきこと甚し。掘、坂本、吉田義等、中途より別れて新庄に向う。風あり歩進む。六時半無事農場到着、群馬県土木技手新井氏、萩野に来る折とて登場、夜清水先生に関するお話を聞く。

七月三十一日 火曜 曇

朝仕事、第一寄宿舎裏胡麻〔胡麻〕畠の除草、船越先生、坂野君はかまど作り。作業、午前中は干草取かたつけ、午後同様。

人員移動、高橋先生、新井氏と五時半羽黒に行目的に由り下場、大山夕刻登場。

八月一日 水曜 曇

本日餅をなす。朝仕事草刈りは第一班、他は第一寄宿舎裏胡麻〔胡麻〕畠の除草、九時半朝食、十一時より丙圃場道路南燕麦の青刈り。午後同様三時餅を作業場に持参す。東田川郡新堀村渡部氏皇国運動見学の予定にて宿泊す。

人員移動、荒木、早川、朝下場、叶内、富樫、坂本、掘、吉田義、夕刻登場。

八月二日 木曜 曇

朝仕事、草刈りは第二班、他は第一寄宿舎裏、胡麻〔胡麻〕の除草中耕作業、黒澤、丹野、小沼、五十嵐、草刈〔草刈は苗字〕と僕は農具舎前道路西、大根の除草間びき、他は丙圃場道路南、粟畠の追肥中耕、午後丹野、小沼、五十嵐、草刈は午前同様間引、大根の整理、他は干草取かたつけ。浅野君登場。

八月三日 金曜 曇

朝仕事、草刈は會田、草刈、笹原、米広、岡崎、牛舎肥料出しは丹野、坂野、小沼、五十嵐、高山と僕、他は道場に二階に干草上げ、九時半朝食。作業、掘、浅野、富樫、叶内は井戸かえ、他は元校舎跡に至りて小豆の除草中耕、三時半昼食。橋本先生、高橋君と四時登場、赤間先生、早川先生、早川、早川のおい、川口、荒木、富樫幸、他二名登場。短期生二十二名登場。夜入会式を行ふ。

八月四日 土曜 晴

朝仕事、第三班草刈り、他は大神宮西牛蒡の除草、短期生武道。八時より橋本先生の朝鮮国境問題に関する講話あり。午後一時半より四時迄長期生東松山下の草かり、杉浦、岡崎、浅野、坂野、坂本、高橋、短期生は青刈燕麦の運搬後打おこし。五時より引続き橋本先生の講話。六時所長先生登場。

八月五日 日曜日 晴

朝仕事、短期生は武道、長期生は赤間大尉の各個教練に号令調整、午前十時まで渋田先生の朝鮮に関する講演あり。十時より短期生は早川先生の皇国運動に関する説明あり。長期生は丙十三号地にソバ播種せり。午后より草刈君、五十嵐両君はライ麦刈り。全員草刈り。
会田君、荒木君、下場す。

八月六日 月曜日 晴 氏家栄暢

午前五時起床、五時半より短期生と共に武道外朝草刈二、三名。朝食後所長先生の皇国精神と農業に付いての一同お話を聞き、十一時頃より昨日焼いた所にソバの播種をやる。午后より長短期生一同赤間先生の教練あり。午後五時頃より全員にて午前中の続きのソバの播種。
人員移動なし。以上。

八月七日 火曜日 曇 五十嵐正道

記事、第一班、短期生、朝武道。第二班、三班は麦後のソバ蒔き。八時より所長先生の皇国精神に付いての御話、非常に為めになる青年の踏べき道の事に付いて御話がありました。正午まで短期生乾草入れ、第一班番外Bのソバ蒔、第二、三班は開墾す。笹原、五十嵐、ライ麦の仕末〔始末〕。午後短期生開墾、第二、三班乾草後仕末〔始末〕、一班小麦の調整、高橋、五十嵐、大豆の中耕す。
所感

八月八日 水曜日 晴

記事、朝五時半起床、五時半より一時間余武道。八時頃より所長先生の講演あり。十時半終り、直ちに開墾をする。午後二時半より五時迄午前と同じく開墾す。五時半頃夕食、七時頃より茶話会を開く。農試場の山北先生の御話を受給はり茶会に入る。赤間先生の実戦談を受給り、十時頃寮歌を以て閉会となした。
人員移動、細谷一見兄帰省。
事故なし、農試より三名来る。

八月九日 木曜日 曇り 浅野

午前五時起床、五時半より短期生と共に武道外朝草刈り四名。朝食後山北先生の蔬菜栽培に付て講演あり。終て先生に実地研究に畑を一同で巡り色々の蔬菜に研究事項がありました。午後は短期生共に開墾、ソバ蒔きを行いました。

人員移動、農試の山北先生、外二名助手が午后より下山しました。以上。

八月十日 金曜日 曇り少しく雨 草刈

午前四時起床、所長ノ都合デ今日ハ速ク起キ皇国運動、後短期講習終了式。長期生モ前班ノ休ノ人ハ下ル。短期ハモチロン農場ハ嵐ノ後ノ如ク静ニナリス。後リシ十五、六名ハ午前中大根ノ間引ヨクノ消毒致シテ今日ハ定休日、故ニ午後カラ休ミタリ。

八月十一日 晴暑く非常に風少有り

五時起床、朝仕事、大根の間引、第一班草刈。午前中陸稲の草取り、午後前中を引続を除草。坂野君、笹原君、松田君は大石田町に下山す。氏家君、川口君と甘藍の消毒。交代にてエンバクの小鳥追ひ。九時礼拝後就床。以上。

八月十二日 日曜 晴 吉田英一

五時起床、襖をなし皇国運動、朝仕事、全員にて草刈、笹原君と僕は燕麦の小鳥追ひ。作業、青刈燕麦黴を生じたる為、テニスコートにひろげて乾燥し、後第二寄宿舎東、大豆畠の除草。九時半富並工藤氏来りて弥栄号の角切断。午后テニスコート西、馬鈴薯の偽瓢虫（「テントウムシダマシ」とり、後大神宮西牛蒡畠南、大豆の除草、帰りにて燕麦取かたつけ、一部は道場にあぐ。交々小鳥追ひ。坂野、高山君、大石田へ毛布其他持参に行。

八月十三日 月曜 晴 高山政雄

五時起床、襖をなし皇国運動後、坂野、川口両君、燕麦の小鳥追を拝命、残の全員秣苧。朝食後、笹原、杉田両君下山。残員十一名九時より燕麦刈、僕等の初考では到底今日一日では出来まじく、考へれど全員の熱心は見事二反以上の燕麦を刈り終へて運搬、テニスコートの上一面に並べ乾す。刈りをへし時すでに陽は三枚ビラの影に没して汗シャツを濡す。炊事、草刈君に川口、太田両君応援。シルコの馳走は我々に大なる満足を与へた。以上。

八月十四日 火曜日 晴天 阪野

六時起床、襖をして一同皇国運動なし、朝仕事、燕麦をコートに干方、七時半朝食、午前中は休み、拾壺時半に昼食を食べ、午后壺時より燕麦の調製をやり、七時半に夕食を食べ、食後高橋先生より私等前途の修養講話をきき、九時に床に就きました。人員移動なし。以上

八月十五日（水）晴、雨模様あり

五時起床、朝仕事、草刈全員、午前中エンド畑の整理、午後燕麦の調製。人員移動、氏家、五十嵐、川口、草刈の諸兄は蔵王朝日山の登山に行く。沓名兄、清野兄は登場す。九時礼拝就床。以上。

八月十六日 木 晴

起床五時、朝仕事、全員草刈。終日害虫^ク除。人員移動、吉田君、小沼君、高山君、下山す。九時礼拝起床。以上。

八月十七日

五時起床、朝仕事、全員草刈。午前中エンドウの整理及び青菜の消毒。午後燕麦藁を道場入れ、後午前中作業を引続き。人員移動、早川兄登場。九時礼拝就床、以上。

八月十八日 土曜日 晴 26℃ 早川貞治

五時起床、皇国運動をなす。草刈高橋先生、清野君、沓名君、雑業を為す。坂野君、早川生〔先生〕、富並へ牛曳。終り。

八月十九日 日曜日

草刈全員、堆肥積、高橋利、掘、□野、岡崎の諸氏、蔬菜園の手入を行ふ。人員移動、坂野氏下山、登場早川先生。

八月二十日 月

本日は休日なり。草刈全員、朝仕事後休日。
人員移動、丹野君、喉の疾病あるため、早川先生、掘、高橋利、岡崎は富並まで送り、掘君は山形まで護り行かれた。高橋先生、池田君は下山。

八月廿一日 天候（晴） 火 浅野佐内

朝5時起床、朝草刈、高橋利、岡崎、大山、早川、浅野、朝食後、高橋、岡崎、牛を引いて富並行、私と早川先生、早川貞と道場掃除、大山鳥料理、其よりごぼう除草、清野炊事、正午昼食后午より早川先生と貞治君、私と3名で小豆の除草。畑野川北及び米廣君登場。終り。

八月廿二日（水）天候晴 浅野佐内

朝五時起床、草刈牛引を私、高橋利、大山、清野、米廣、残り早川先生等、大豆除草、岡崎炊事、高橋先生の親友、登場。朝食後午前中、小豆除草、又后午より小豆除草、友部よ2人来りました。后午六時より私と高橋利、米廣と堆肥に水をかけた。夕飯后午七時、后午九時礼拝、休み。終り。

八月廿三日（木）天候晴 浅野佐内

朝五時起床、朝草刈、高橋利、清野、大山、牛を引いて私、米廣、早川貞、大神宮上の小豆除草、朝食、午前八時、午前九時実習全員で道場掃除及び□草上げ、岡崎炊事、午后より道場集団（周囲）掃除、五十嵐、叶内、吉田義、登場、后午八時夕食后午九時礼拝、同九時。川口、松田、氏家登場。終り。休み。

八月廿四日（金）天候雲 浅野佐内

朝五時起床、私と吉田義雄君炊事、朝草刈、岡崎、牛を引いて五十嵐、清野、大山、残りも甘藷除草、朝飯午前八時高橋利、叶内、米廣、大石田行。午前九時実習甘藷除草、后午2時昼飯、后午3時より□□、早川先生外小豆除草、岡崎、川口、庭掃除、□□、船越先生、富樫登場。夕飯后午七時。終り。

八月二十五日 晴後雲り少雨

五時起床、朝仕事草刈（全員）杉苗向の小豆除草後、門外の小豆草取。午後玉蜀黍の脱穀後休。日本〔本日？〕より第弐会短期講習会。

人員移動、登場者、野坂、会田、杉浦、高山、草刈、赤間先生、笹原、土谷、後藤、所長。下山、野坂、高橋等山ノ内口で所長迎ひ。九時礼拝就床、以上。

八月二十六日 日曜 曇 吉田英一

朝仕事、全員にて草刈り。七時より短期講習会入会式を挙行。午前は農民の資格に関する所長先生の講話、拾時より実習、長期第一班は堆肥出し、第二班畠の畦刈り、第三班農場入口小豆の除草。短期生第一―第五班は大神宮前杉の下刈り、残は除草。午後山崎先生農民道に関する講話。五時より第一、二は畦刈、第三班杉松苗の除草。本日富並並に西郷処女会員約二百名、正午登場。山崎先生講話後帰還。

八月二十七日 月曜 曇

朝仕事、C圃場道路南粟小豆畠の除草。短期生皇国運動。拾時迄山崎先生の農民道、感謝進歩協同に関する講話。後馬鈴薯の除草。午後馬鈴薯発掘運搬、全部完了。C圃場道路南小豆の除草。山崎先生午前拾一時下場、赤間先生夕刻登場。

八月二十八日 火曜 曇

朝仕事、長期は丙A小豆の除草、短期武道拾時迄、短期生は所長の講話、長期生教練。拾時より正午迄合同にて中隊教練。午後長期生は東新墾予定場の薪切り。短期生―四班は杉の下刈り。残は除草。

八月廿九日 水曜 曇

山崎先生九時登場、短期生半は大神宮裏大豆の除草、他は燕麦あとの打おこし。長期新墾予定地の薪切り、後藤、富樫、大山は大根追肥、僕、会田、川口、太田は芋洗ひ。午後山崎先生の講話、五時より赤間先生の教練時に豪雨肺〔沛〕然として来るを以て中止。田沢青年拾数名登場、夕方帰る。

八月卅日 木曜 曇

午前山崎先生講話、正午北村山郡各町村校長連三十五名登場。午後長期生薪切り、短期校長連は開墾並に馬鈴薯あとの打おこし、長期生は薪切り。本日北村山郡各町村校長連三十五名並に白鳥青年十五名登場。夜全員にて茶話会を開く。在場総員百八十数名、山崎先生のお話、所長の挨拶、校長の謝辞、短期生の処感等あり。甚盛会なりき。

八月卅一日 金曜 曇

朝仕事、第二班草刈り、他は畦刈り、校長連皇国運動、短期生武道後一同にて皇国運動。食前一同にて記念撮影をなす。食後山崎先生の講話。午後所長の皇国運動並に植民問題に関する講話。後長期生は□〔材、伐？〕作り、短期一、二、八、九班は萩刈り。他は東新開地の開墾、赤間先生、校長連白鳥連中、午後帰還。

九月一日 土曜 晴

五時半より全員にて皇国運動後終了式挙行。朝食七時。山崎先生弥栄に送られて下場。短期生も交々帰還。山崎先生の書くぢびきにて戴く。午前中一班道場取かたつけ、二班下駄整理、三班草刈、午后休み。氏家君帰宅。

九月二日 日曜 晴

朝仕事、第一班草刈、他は馬鈴薯選り。
作業、第一班以下拾名はテニスコート西甘しよの蔓返し後甘らんの除草、青虫とり、他は第二寄宿舍東西瓜畠の草けづり、後東の南新開地西瓜南瓜畠の草けづり、午後同様第二室の宿舍東甘薯の除草後馬鈴薯のいもひろひ、本日土屋君下場、掘、會田君、甘らんにデリス散布。

九月三日 月曜 晴 後藤武

五時起床、朝仕事、馬鈴薯選り、船越先生以下坂野、高橋、叶内、荒木、杉浦、富樫君等、山の内に臼運びに行いた。午前の作業は南瓜の除草と農具舎後の薪整理、午後から馬屋の肥出し、薪整理は引続き終日、午後二時半南村山郡中川村青年団十名到着、続いて飽海郡遊佐公民学校生徒二拾六名校長引率にて登場、夜いつもの通り九時就寝以上。

九月四日 火曜 晴 坂本国策

朝仕事、武道、皇国運動。短期生七時道場出発。作業、草刈は川口、松田、米広の諸侯にして□□は萩刈、会田、掘、坂野、所長は甘藍の殺虫。午後同様。舟越先生、叶内、富樫、荒木、高橋は甘藍の灌水、午後三時、沖郷青年団員十五名登場、開墾をなす。

九月五日 木曜 晴 吉田大八

長期生一同にて武道やまとはたらきをなし、朝食後所長の講演十時より一同正午まで開墾。一時、短期生帰る。午後草刈三班、他は萩刈、後藤最も刈つたり。船越先生一派は灌水。今夕短期講習会、千秋慶祝として餅をなす。丹野、氏家君帰る。（登場）後藤君、餅最も食べて此の日腹痛み、した。終り。

九月六日 金曜 晴 青野泰雄

五時起床、襖をなし、朝仕事、丹野君、後藤君と私は縄なひをし其の他の人は馬鈴薯選り、又菜蕪の施肥、朝食後、菜種の蒔付け、小豆の収穫、馬鈴薯拾ひ等分担して、午后よりも同じ。夕方萩片つけ等をなす。

人員移動、所長先生下山、高橋君帰郷。

九月七日 土曜日 小雨 太田宇忠

五時起床、襖をなし、朝仕事、小豆むき。午前中小豆むき及縄なひ、午後作業なし、九時半礼拝、十時夕食。友部より野々山先生来る。

事故、紛失事件出ず。午後二時半より九時半まで道場に於て一同反省取調べるも判明せず。

人員移動、須藤君登場す。

九月八日 土曜日 曇一時雨 荒木

作業、朝仕事、一班草刈、他は道場にて小豆むき、朝食後友部国民高等学校の野々山先生の話聞く。西瓜栽培方法も聞く。十時より坂野、坂本、叶内、富樫、杉浦、高山、五十嵐、私と神宮上の西瓜畑に堆肥積み、他は小豆もぎ、午後一班小豆もぎ、二三班堆肥積み、石灰二俵使用、高さ約五尺二間半四方、午前十時友部の野々山先生と

船越先生下山す。終り

九月九日 日曜日 晴

作業、堆肥つみ一組、朝仕事、草刈り一組をなす。食後堆肥積み一組と、萩刈とお〔を〕なす。午後同様なり。午後より五十嵐君小豆調製お〔を〕なす。終り

九月拾日 晴 會田俊雄

五時起床、一部厩肥出シ、残部薪整理、七時半朝食後定期ノ休ミ。或人ハ下界へ今日ゾ洗濯ト、又読書スル人モ有ル。早川先生達、農場ノ実測。ナント御苦勞様ト感謝ノ念湧ク。残暑激烈ナル下ニ昼食ニテ植民組ノ荒木君ノ御土話〔土産？〕デ玉蜀黍ダケ。夕餉ニハ名物汁粉デ舌鼓ヲ打ツ。今朝坂本、米廣両君下山、午後珍ラシクモ小笠原君参上。

初秋ノ風、朝ノ禊ニ一般ノ快味ヲ覚エル様ニナツタ。此ノ俺ニモ此処ニ於テ春ヲ迎ヘ夏ヲ過ゴシ秋ヲ迎エントシテル。中途下山スルモ在場モ短クナイ。真劍ノ農夫ノ輝キ觀〔歎〕喜モシタト同時、俗□野暮ト嫌気モ起キタ。家モ捨テタ吾ニハ考ヘル暇モ少ナクナカツタ。是レマデ山崎先生初メ諸先生ノ処世訓、新シク強ク生キル農民道弥栄ノ道、諸先生ト共ニ流ス汗、ソノ奥底ニ流ル、或物ヲオボロナガラモ意識スル、感ズルト共ニ帰レ帰レト底力アル言葉ガ強イ叫ビガモレルヲ感ズル。帰ツテ大地ヲ踏ミシメヨト。今日読ンダムツソリニ伝ニヨルト彼ハ不言実行ダソダ。

九月拾壹日 晴 氏家栄暢

五時起床、朝草刈第二班、一班は陸稲畑の除草、三班は堆肥に水掛けをやる。朝食後は全員にて薪の整理運ばん等。午後からも同様五時の中休みに皆んなで西瓜を頂く。吉田義君下場。

九月拾貳日 曇 五十嵐正道

作業、朝草第三班、残り全部薪整理運搬、朝食後全員薪の整理、午後より麦蒔きの準備、七時礼拝。

人員移動、掘君退場、太田、米広、小沼、富樫の諸兄、病ひの床に臥しぬ。

感想、この高天ゲ原も冷めたき雪にとざされて八百万神も中国に天下る。もう二ヶ月

の命だ。来世はあるだらうが、現世は二ヶ月、中国□に発展せんとする心は神々の顔に表れて居るでわないか。

九月拾参日 天晴れ、松田

五時起床、五時半より薪整理及び運搬、七時過ぎ朝食、後八時頃より全員にて麦蒔きの準備、うねを切り堆肥運搬等やれり。昼からも午前中と同じ。

人員移動、高橋先生来たる。ために西瓜を食ふ事が出来た

× × × × × ×

もう秋だ。虫君達が草葉の陰で見事にオーゲストラをかなでゝ居る。がもう直き冷たい冬が来て白い雪の農場が包まれる。ほんと□もう直きだ。みつしりやらう。

九月十四日 曇天 金曜 米広

五時起床、皇国運動、二班草刈、外全部麦蒔地堆肥の覆土。午前麦蒔地へ堆肥運搬、富樫、岡崎、牛二頭引き富並行。午后堆肥運搬及び覆土。夜角力を取る。九時礼拝就床。

事故なし。

人員移動、早川先生、貞治君下場。

所感、我々も修養道場に於ける修養期間も後一ヶ月程になりました。風は涼しい。我々が一生懸命実習に於て精心〔精神〕の鍛練する時は此の時であります。ぐづぐづして居る間に時は過ぎて行きます。御互にミツシリ修養致しませう。私は諸兄御存知の如く至つて意志の弱い人間ですから、諸兄よ、陰に陽にムチ打て下さい。此の尊とい紙上を借りて御願ひ致します。以上。

九月十五日 曇 叶内

一、五時起床、五時半皇運。

二、作業、朝一、二班、麦蒔準備、三班草刈り。八時朝食。午前中須藤、坂野以下七名、下の官舎跡に小豆もぎ、残りは朝の続き。午後五時迄、午前の引続四名にて井戸掃除、以後小豆もぎ。

三、登場者、船越先生、高橋利喜助君、下山者、吉田英一君、青野泰雄君。

四、事故なし。

九月十六日 雨 岡崎

一、起床五時、皇運後各自分担任に着く。二班草刈り五名、外ハ麦播種畑のふく土、叶内、富樫、大石田に炊事用品運びに行く。薪運搬、麦播種す。午後も同じ。事故なし。

人員移動、浅野、佐内、下場。

所感、吾等も早や最後五分間と云ふ時期なのだ。余す処一ヶ月余である。然るに吾等の奮闘すべき時は来り、此の一口に於て大いに骨身をおしまず、御互に諸共い修養を務めませう。

九月十七日 雨天

五時起床して禊、一斉皇国運動して第三班草刈りす。他は麦播種する。午前中の作業として六名厩肥出し。他は炭焼と木切りす。高橋君、富並に小豆運搬す。鮮牛一頭引きて午後六名燕麦蒞りする。他は午前同業。事故無し。

人員移動、荒木、丹野、草蒞、下場。

所感は除々「徐々」に書かう。（富樫生）

九月十八日

五時起床、禊、皇国運動、第一、第二、草刈、残員□□。午前午後藁仕事。員人〔人員〕移動、米廣兄、叶内兄、坂野兄。九時礼拝就床。以上。

九月二十日 晴天

五時起床、禊、皇国運動、草刈一班、二班、午前。飯後の〔約二字分空き〕午後ヨリ陸稲刈り。玉蜀黍刈り、員人〔人員〕移動、米廣、小笠原、岡崎、土屋兄、坂野兄。九時礼拝就床、終り。

九月二十一日 晴後雨 早川貞治

五時起床、禊す。皇国運動を行ひ気分を等〔統〕一して作業に取り掛る。草刈第二班、氏家、松田、五十嵐の諸兄。他は幹□の間引、以上。朝仕事、草刈班は朝鮮老婦人〔牛

のこと」を曳きて大位に頑張なり。朝食九時終り。九時半作業始め、燕麦の後へ菜の播種。午後は玉蜀黍の穂切り、休憩時間にはお八ツ、西瓜の御馳走。陸稲の格納、六時半終了。終り。

九月拾九日 雨天〔二十一日の次の頁に記されている〕

午前五時起床、禊して皇国運動後、三班草刈り、他は麦播種、朝飯後降雨にて外仕事出来又故、道場にて藁仕事するなり。午後同業なり。

九月二十二日

午前五時起床、禊をして皇国運動をして草刈す。残りの人々菜の間引をして八時半朝飯、午前中唐キビ刈り及運搬〔搬〕。午后私及パリ、高山君、高橋先生の四人で開墾地の後片付け、のち〔以下空白〕

夜晚、浅食の西瓜四つ六つ、高橋院長診察済みのやつをそれぞれとりて、僕は青いやつを二つ許り撰つて大失敗した。之も修業と思つた。四時、下の官舎の小豆とり連中かへる。皆んなで赤い顔して喰競走〔競争〕。パリ君は一番くつた。氏榮君第二らしい。

今日は一日皆んな発句が出た。高橋先生の

堆肥積み 終りて仰ぐ 秋の月

之ぞ我等の禊なりけり 高橋朱農

誰かの暗い夜西瓜畑に影二つ等やつた

郵便物の一冊に山ノ内小学校より明日運動会の便ありたり。高天ヶ原の勇士腕を□して明日をまつ。

二伸、船越、松田、両氏下山。天地太田之宇忠

九月二十三日 晴

五時起床、朝仕事草刈四名、残西瓜取り、□残、午前の整理、九時下山す。山ノ内運動会に行く。夜九時礼拝就床。以上。無名氏

九月廿五日 雨 高山政雄

人員十四名、朝草刈、須藤、富樫、小沼、杉浦の面々、残り四名菜の間引き、五十嵐、

杉田炊事、富樫君大石田行き。若朝鮮夫人を牽いて午前中全員で玉蜀黍頭刈とり。午後雨激しければ道場中にて小豆さやもぎ。四時前より開墾地の薪整理、雨尚ほ激しく降りて体ハビツシヨ濡れ。五時半富樫君、所長先生、坂野君同伴登場。夕餐は炊事部の骨折りにて宇どん、うで豆、薩摩芋等食卓へと賑しき。薩摩芋は新しく初物とて殊におふ「い」しく食す。九時礼拝。氏家君の病気を案じつつ床に就く。以上。

九月二十六日 晴天 早川貞治

朝仕事間引。十時頃より門外の小豆もぎ。午後も同様にテント北の小豆もぎ、高山、小沼、太田、早川の諸氏で行ふ。大山、五十嵐諸氏は所長と共に道場整理。人員移動、高橋先生、須藤君は氏家君の病気のため付そひ乍ら山形へ行く。全員十一名。

九月二十七日 晴天 小沼

朝仕事、草刈と小豆もぎ。午前より小豆もぎ。午後より小豆の調整、中曜より大根間引。九時礼拝床に就く。以上。終り。

九月廿八日 晴れたり曇たり

五時起床、非常に寒ムシ。皇国運動及所長室のそうじをして朝仕事に取掛る。菜の間引、私は兎のえさ取と間引と両方した。朝食八時半、松田、大山、早川、五十嵐諸兄草刈。九時より作業、短期生用の赤毛ふ等ほす。十時半より小豆の苺取り、一時昼食、二時より作業同し、ほし物の取入れ。四時半より大山君の手掛にてはとりのえさ造り。六時半夕食、七時二十分より夜業。九時半床に就く。太田生

九月廿九日 晴後曇り

朝五時起床、朝仕事草苺、五人外菜の間引。朝食後毛布干方後、陸稻の脱穀、調製、粃、二石壺斗九升收穫し、午後間前の小豆一同で苺取後、小豆の調製、壺俵壺斗、黒小豆、阪野、太田君で試験畑の麦に覆土（樺太式）、夜業休み、九時床に就く。人員移動、松田君帰宅す。

九月三十日 小雨

朝五時起床、朝仕事、一同で草苳、食後作業休み。所長先生、八時に山形に御出発なされた。一同見送り後各自に休みました。午后より叶内、阪野で記念館の整理をやりました。九時礼拝、床に就きました。

人員移動、所長先生、帰省。

在場生、九人です。実に農場も淋しくなりました。

十月一日 晴 風

五時起床し朝仕事、六人草苳、叶内、阪野で馬鈴薯の種薯貯蔵場掘り方、朝食後一同で小豆の苳取、昼食後は小豆の調製、老俵と九升収穫す。夕食後七時二十分に船越先生登場しました。船越先生の御土産を頂戴して先生より山形の御談し御聴し十時に礼拝、床に就きました。

人員移〔移動〕、船越先生登場す。南村山郡本庄村の短期生登場し。

十月二日 晴れ 初霜

五時起床し五人草苳、富樫、阪野は炭釜〔窯〕より初て出ました。約拾ヶ程朝食後南瓜西瓜の収穫、宿舍の掃除、蚤退治をやりました。一同で午后は小豆の調製、四升二人で外は神宮裏の新開地の小豆の苳取り、夜業玉蜀黍の乾燥準備、九時半礼拝、床に就き。

人員移動、松田君登場す。

十月三日 曇り後雨

五時起床、朝仕事は草苳五人、富樫、阪野は大石田行き準備、午前玉蜀黍収穫、大豆畑の畦の整理、堆肥積み、午后も堆肥積み、富樫、阪野、大石田に小豆送りに牛にて行き（老俵黒小豆）、鈴木練太郎氏に送り、夜業休み。

人員移動、高橋先生登場す。

十月四日 曇り後雨

五時起床、朝仕事、草苳、乾燥木取り（玉蜀黍用の□）、食後蕎麦苳、船越先生外二名、玉蜀黍の乾燥場作り、午后は高橋先生外二名、蕎麦苳、外一同で小豆収穫。夜業、玉蜀黍乾燥準備、九時礼拝、床就□。

人員移動、丹野君登場す。

十月五日 曇り

朝仕事、草刈、□太式の麦の覆土す。玉蜀黍の乾燥掛方。食后皆んな朝晴に□桑狩りとしやれこんで行く。その実アキビ取りに行った。□□大いなる傑作を出して帰り来る。登山袋に服のホケツト〔ボケツト〕に風呂敷に、得物どつさり。炊事、高山五十嵐に感謝せる。

十月六日 曇り雨

朝仕事、草刈り、玉蜀黍の掛方。午前一同で外掃除、便所、記念館の掃除。午後は牛舎の肥出し。以上五名他、玉蜀黍、黒大豆の収穫。夜業、トホモロコシの乾燥準備。九時礼拝。

十月七日 雨降り

朝仕事、草刈、玉蜀黍の掛方、炭出し。午前後、玉蜀黍の乾燥準備す。高橋先生外三名、鶏〔つくりが佳〕の料理す。食卓はにぎわふ。

人員移動、船越先生下場、会田俊夫兄登場。

十月八日 雨降り

朝高橋先生の下に武道。午前中、小豆もぎ、藁仕事。午後開墾。

人員移動、浅野、岡崎両兄登場。以上

十月九日 月曜日〔火曜日〕 晴 丹野

朝五時起床、皇国運動をして朝仕事にテントの倒れたのをおこし草刈りをしてトキビをかけて朝食。午前中は僕と富樫君とで鍬（唐鍬？）を修繕し、其の他は玉蜀黍のからで以て堆肥を積み。午后より開墾をやり中休みに西瓜を食ひ、上つて夕食後玉蜀黍あみを、夜業をやり就床。川口君登場。

十月十日 水曜日 晴 早川貞治

起床六時、本日は休日を以て皇国運動、朝仕事を成して作業終る。仕事、草刈、道場

舎外の整理等成り。

人員移動なし。

夜は寮歌練習をなし九時就床。イタチ取りをソバ畑の傍に仕掛く。終り。

十月十一日 木曜日 小沼

起床五時、皇国運動、朝仕事、草刈と玉蜀黍の整理。朝食。午前玉蜀黍の整理、十時半より大麦の土かけ。昼食。午前より開墾をやり中休みに西瓜を食ひ上げて夕食。吉田君の菓を頂く。九時就床、吉田君登場。終り。

昭和三年十月十二日 金曜日 太田宇忠

皇国運動をして朝仕事に取掛る。草刈大麦の土入れをする（朝仕事）。礼拝して食事。九時より作業、大麦の土入れ、全員にてす。後午は開墾、六時半夕食。九時礼拝就床。

十月十三日 土曜日 曇り 五十嵐

朝仕事、草刈、残り全部、沢庵大根の引き抜き、坂野兄、五十嵐、試験用の馬鈴薯掘り。午前中大根の仕末、午後は開墾す、残念ながら少しく残す。中休みの西瓜畑に於ける宴はにぎはし。

十月十四日 時雨 會田

今朝カラ雨降り、道場デ皇国運動。行啓記念ノ朝、反省スベク、朝仕事ノ時間ヲシテ五ツノ宿題ノ下ニ午前中大根ヒマハリ等ノ整理、昼ニハ密接ナ関係アル今日ヲ祝フタメ、高橋先生ノ鳥肉飯ニ舌鼓ヲ打ち、午後昨日残りシ開墾、記念館前ノ打起シハ一気呵成ニ夕方マデ粟刈取、サツマイモノ收穫、夜食後、坂野君ガ御馳走ナルサツマイモ、マンヂユウ、枝豆ヲ卓上ニ飾リツ、高橋先生ヨリ当時ノ今日、記念講演アリマシタ。皆感激ニ燃ユ。十時就床。

寒クナツタ去ツテ来タル秋雨一瞬一瞬一風毎ニ身ニシム。低雲東へ東へと走ル。雲間カラ洩ル光ノ温カサ、光ニ映ズル葉山三枚半、朝晴ノ紅葉、真紅殺風ナ冬モ来ルノダ。同志ヨ吾等ハ湧カソウ血潮ヲ、秋ノ紅葉ノ様ニ、ソシテ無味ナ暗憂鬱ナ冬ノ日ナキ永ク燃エテハ弥栄ノ道ヲ研究メヨウ。

拾月拾五日 晴

五時起床、襖をなし皇国運動。朝仕事第二班草刈、残は農場入口より漸次麦ふみ。作業、全員にて東の北新墾地のそばこき。次に第二班は麦ふみ、第一班粟かけ、第三班粟かり。午後第一班は薪入れ、他は東の中央新墾地の薪整理、同運搬。

拾月拾六日 晴

朝仕事は第三班草刈に薪せをいをなす。午前中全部萱刈す。午后より肥出しに菜の間引をして夕方薪せおいをなす。夕食後研究会ありたり。九時礼拝、床につく。終り。

十月十七日 水曜 曇時々雨

朝仕事第一班草刈、他は蕎麦刈り。午前全員にて朝露山麓のそばかり、午後先ず蕎麦かけ、粟の葉刈り、白菜うで、同掛け、或は唐ぐわの整理等雑仕事。

人員移動、坂野、大山君下場。

八時就床。

十月十八日 木曜 曇

三時半起床、襖をなし朝食。四時半農場出発、山ノ内迄暗し。八時三十六分袖崎発、車中富樫、坂本君等と会す。北山形にて下車、直に講習所に行く。一時半より三時半まで県会議事堂に於て大川周明先生の日本精神の確立と題し徒に事情の異なる外国に於て生み出されたる外国の思想にかぶるゝことなく、古来より存する日本精神を御大典を挙げさせらるゝ此際、特に確立せねばならぬと云ふお話を聴く。四時—五時本所に於て大川先生の張学良との会見談茶話会等あり。講習生の来聴するもの多し。

十月十九日 金曜 曇

六時起床、襖をなし室内外の掃除、皇国運動。八時半より道場に於て第十三期生修了、記念事業の相談、大体金参百円を以て大神宮改築案に決定。内金貳百円を卒業生より寄付募集にする事に決す。拾時十分北山形発、途中天童にて下車し養鶏産業品評会見学、一汽車後れて袖崎二時着、赤石にて休憩、渡を渡りて行く。太田君風邪けなり。高橋先生、叶内、堀、富樫君等為に後れて登場、僕、川口、小沼君、途中迄出迎。太田君床につく。

十月廿日 土曜 曇

朝仕事、僕、富樫、早川君は草刈、他は甘藷間引、午前高橋先生等山ノ内に至りて陸稲のみすり、原〔玄〕米四斗四升とる。残は第二寄宿舎の整理等し、甘藷ほり。午後大神宮西の大豆かり。大石田小学校生徒、先生三名以下二十六名登場、夜第二寄宿舎に於て高橋先生のお話をきく。須藤、荒木、岡崎、松田登場。

十月二十一日 日曜 雨

朝仕事、僕と小沼君、草刈、他は初杉苗ほり、後甘藷ほり。

作業、午前午后共に甘藷ほり。大石田生徒は第二寄宿舎に於てトモロコシのだつ粒。一時半下場。本日甘しよ、大根等買数十名来場。所長、大山君登場。

拾月式拾日 曇 松田

朝皇国運動を行ひ、全員にて甘藷ほりをやる。二、三名にて生産物買ひに来た連中に販売。朝食後も直ぐ朝仕事と同じに甘藷掘り及び販売、藁山とつまる。昼よりは全員にて大豆茹をやる。そしてそれを運んでコートに立てる。夜八時より寮歌練習あり。

叶内、富樫両兄、鮮牛を引いて大石田行き。人員移動なし。

月の歩みは早い。あはたゞしく過ぎて行く今日此頃……。農場も紅葉に包まれて葉山おろしの冷たい風がおそうて来る。もう直ぐだ。テープが見へる。全力をつくそう。ラスト、ヘービーだ。そして世の中の立つ土台を作らう。

十月二十三日 曇少雨

朝皇国運動、朝仕事全員両圃場大豆刈り。午前道場裏の胡〔胡〕麻茹り。午後試験園の菜の間引、豌豆播種。丹野、荒木、豚箱作る。夜業所長、富樫、荒木、回転棒作り、他は菜編み。

十月二十四日 曇

朝仕事、杉苗掘り。午前叶内、堀、松田、荒木、杉浦、岡崎、豚運搬。午前九時富並小学校五年以上男女共二百六名登場、長期生と共に粟もみ、玉蜀黍脱粒、菜間引等なす。午後三時さつまいも御馳走して下場。夜業縄緬ひ菜編み、丹野君下場。

十月二十五日 晴

朝仕事甘藷掘り、大根、菜掛け、午前馬鈴薯貯蔵、大豆調製、大豆刈り。午后同様、松田、荒木、富並、寺崎大口ひに宿りて豚運搬、亀井田にて萩野出迎ひの馬車、新野、青木両君に渡す。夜業とぎみ「玉蜀黍？」脱粒、縄縷ひ、船越先生九時頃登場。

十月二十六日 快晴

朝仕事、吉田、早川、松田、大根抜き、他は道場整理。午前テント道場整理、大根乾し、船越先生、荒木、道場入口に棚作る。午后大豆調製、夕方おそく迄やる。夜業はなひ、玉蜀黍脱粒、細谷、草刈、黒澤、高橋登場、高橋先生、須藤助手、杉浦（三時頃）下場。

十月二十七日 晴

朝仕事、大根抜き、山羊小屋、道場整理。午前大豆調製五俵二斗、蕎麦打ちおこし、午后同様。夕方四五名、神宮裏の大豆刈り。東村山郡鈴川村青年幹部長谷川先輩以下七名、坂野助手登場。夜は記念館に於て茶話会、細谷市見氏も下場。

十月二十八日 快晴

朝仕事全員玉蜀黍脱粒、午前記念杉植林、鈴川青年幹部もなす。午后所長一派蕎麦打ち、甘藷収穫、船越一派稗苳りきび刈り、大根抜き。午后鈴川青年幹部下場。

十月二十九日 雨

朝仕事、記念植林。午前雨が降つたので畑にある大豆道場に入れた。後記念植林杉終了。午后三時迄す。午后道場整理、なわなひ等、八時半迄。夜業せず。

十月卅日 曇り

朝皇国運動の後、一同縄なひ致したり、食後記念植林。時々風にまじりて雨降り、寒き事一通りならず。午後よりも相同じなり。午後六時頃迄致して終りたり。夜業一同縄なひ致し九時礼拝して寝に付く。

十月卅一日

葉山嵐しの寒風を頬に受けて禊する。寒暖計の低温は葉山、「朝霧山？」の雪に原因していた。箕に身体を包んで作業に取りかゝる。朝仕事、松の植林。午前中尚ほ引き続き松の植林、総数約一千五六百本。此の冷たさではヤリキレヌといふ声の其処此処でして、兎にかく釜の前は賑はふ。午後は麦畑の土入れ、踏み方、眼に余る青麦も五時前には全部仕終へた。夜業なし。旅行の一件につき相談ありたり。

十一月一日 木曜 初雪 曇

白雪約一寸農場を覆ふ。寒し。禊をなし道場に於てきびもみ作業、馬屋出し、干大根、干菜入れ、人糞尿くみ等。午後C圃場燕麦跡作の蕎麦刈り。後道場に於て大豆こき完了。

人員移動、川口下場、須藤、堀、松田登場。

十一月二日 金曜 曇

霜白し、皇国運動をなし道場に於て胡麻えり、大根つけ等なす。午前萱かり雪かこい等なす。袖崎小学生遠足がてらに來場。午後大豆調製胡麻落し等。夜茶話会、所長先生の農場に於ける本年最終の訓話、岡崎、浅野君の琵琶、浪花節あり。甚盛会なりき。

十一月三日 土曜 雨 明治節

雨降る、朝仕事、杉植林七百本余。午前大神宮建立地に石を運搬し地ならし。地鎮祭、昼食は餅。人員移動、所長先生、高橋、下場。

十一月四日 日曜日 晴

みんな下場、萩野に行く。吉田茂、阪本、堀、高山、帰宅。残留隊は須藤、阪野、両助手を先頭に松田、叶内、富樫、大山、小沼、太田、五十嵐、諸兄、一騎当千の勇士のみ。千秋楽に近い一日はキヤベツ取り雪除。午後薪入れ、叶内、富樫両兄、富並行き。夜業は大豆打ち、俵あみ、以上。

所感、急に淋しくなりぬ。葉山の峯が白くなり行くが如くに再び見ない農場にさらば告ぐる。人々を見送る弥栄の声は小なれど行手は輝く。行け行け希望の彼岸へ。以上。

拾一月拾日 雪、雨、雪 御大典 松田節郎

昨夜の雨風が朝起きたら雪に変わって居て、五十嵐兄と二人で荷作りをやる。須藤兄が炊事をやる。朝食後、井上兄が奉仕者を連れて富並行きで此の寒さにと思ふと心から感謝の念に打たれる。俺達は三人で牛舎と鶏舎、兎、山羊の堆肥出して積む。三人してだから思ふ様にはかどらぬ。手と云はず頭と云はず、霽や雪にたゝかれて閉口した。併しだんだんやつて居たら、足も手も何もかも堆肥の熱でぼかばかにあた「あたた」まった。一心に働けば何をやつても運が開くとかなんとか色々考へた。

割に早く終つた。昼食は一時過ぎだつたけど、それからぬれた着物を乾したり休んだりして須藤兄は雑整理、俺と五十嵐兄は炊事したり整理したり。夜、俺には今年の最後の夜としての想い出に大枚二十錢づゝで茶話会を俺達四人で静かに併愉快にやつた感想

雪が降つた。何時かは明日の来るのを待つて居た。明日十一日ではなくとも早く明日の様に里に下るのを待つて居た。併、かへるにのが、明日にもなつてみれば二た年の故郷を離れるのは心が残る。□智ではあるが誰もが云ふであらう、此の言葉を。「もう少し、せめてもう少しでも一心にやれば良かった」。俺も亦痛切に感ずる。せめてもう少しやれば良かったと。今じつと考へると、感傷的な心と共に此んなやあんな心持がもつれあつて泣きたい様な気持になる。果して何を背負つてかへるんだらうと思つて……。カアル・ブツセの様に俺は辛ひを拾ひに心の農場に来たんだあ「じゃあ」ない。併し何もも得ずて持つもの何もなくかへる所だけは今の気持だけはカアル・ブツセの詩と同じな気がする。「上田敏訳『海潮音』の訳を付けておく」

山のあなたの空遠く「山のあなたの空遠く」

幸住むと人の云ふ「「幸」住むと人のいふ。」

あゝ我一人訪ね行き「噫、われひとと尋めゆきて、」

涙さしぐみかへり来ん「涙さしぐみ、かへりきぬ。」

山のあなたの空遠く「山のあなたになほ遠く」

幸住むと人の云ふ「「幸」住むと人のいふ。」